

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【外国語／コミュニケーション英語】

1. 対象（聴覚支援学校（総合ビジネスコース 1名）・英語の仕組みや単語が覚えることが苦手）
2. 単元名 「Lesson7 Artificial Intelligence」 （全10時間）
3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	AIについてみたり、聞いたり、読んだりして概要を理解する。
思考力、判断力、表現力等	文法事項（受け身）の仕組みを理解し、受け身の文法を使って身の回りの物について説明することが出来る。
学びに向かう力、人間性等	受け身の文法を用いて、英語で伝えることが出来る。 AI搭載の製品がどこで使われているのか興味をもつ。

4. 本時の目標

※「5」を単元で作成する場合は省略可能です。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

- ・受け身の英文の仕組みを知り、身の回りのものについて英語で説明する。
- ・AI搭載の製品に目を向け、聴覚障害者のために日常生活の中で使われているAIに意識を向ける。

考えるための材料

- ・受け身の文を読んだり、やりとりの中で聞いたりする。
- ・既習事項を使用し、どうやって表現をすればいいのか問いかける。
- ・教科書にある写真についていくつか質問をする。
- ・いろいろなAI搭載の製品を写真等で紹介したり、家でのAI搭載の製品についてとりあげたりする。

想定される活動

- ・既習事項の定着していないことが考えられるが、教室内の既習事項のまとめが書かれたヒントとなる視覚的教材を何回も見返し、質問に答える。
- ・知っているAI搭載の製品や使用したことのあるAI搭載の製品について話す。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・AI搭載の物について教員とどんな場面で使われているのかなど、やりとりをする。
- ・受け身の文法について毎時間確認をし、どんなことを表現できるのか確認する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・文法事項の受け身を用いて英文を書くが、be動詞を入れ忘れり、過去分詞を原形のままで書いてしまったりすることがある。教員の支援を受けて、身の回りのものについて英作文することが出来る。
- ・AI搭載の製品について、長所を見つけることが出来る。